

月刊 建設DATA

データ

SHIZUOKA CONSTRUCTION DATA

No. 298



特集1

静岡県の2011年度当初予算案を読む

投資的経費は3%減の1千656億円

特集2

県立高校土木製図・建築設計優秀作品

インタビュー

東恵子東海大教授に聞く「富士山中心のまちづくり方策」

MARCH

3

2011

毎月20日発行

CONTENTS

■特集1 静岡県2011年度当初予算案を読む 2

投資的経費は3%減の1656億円

■特集2 静岡県立高校 土木製図・建築設計の優秀作品 6

■インタビュー 東恵子東海大教授に聞く 9

「富士山中心のまちづくり方策」

■緊急掲載 **東北地方太平洋沖地震が発生** 12

■**ワイドニュース**

- ・建設業行政 20
- ・建設業団体 25

■**住宅着工統計（1月分）** 27

■**連載情報**

- ・労災 34
- ・倒産 35
- ・資材労務 36
- ・資材市況 37
- ・景況 38
- ・保証 39
- ・統計調査 40

■**工事情報**

- ・官公庁工事NEWS 44
- ・民間主要建築物メモ一覧 46
- ・民間企業動向NEWS 48

■**受注データ(2月)**

- ・県下の公共工事契約高 50
- ・官公庁工事の成契一覧 57
- ・官庁別受注データ 67
- ・業者別受注データ 75
- ・工種別受注データ 78
- ・JV別受注データ 83



着々と工事が進む遠州鉄道鉄道線の連続立体交差

浜松市が進めている遠州鉄道鉄道線の連続立体交差事業。去る2月17日、南土木整備事務所が主催する職員向けの現場見学会が上島駅北側の工事現場で行われた。接道がなく工事用ヤードが確保できないという厳しい施工条件をクリアするため、同市で初めて自走式門型クレーン工法を採用した。ゆっくりと持ち上げら

表紙の
写真

れた桁はレール上を走るクレーンに運ばれ、慎重に橋脚に据え付けられた。同事業では今後、8月ごろをめぐりに駅舎が完成する見込み。9月以降は鉄道事業者である遠州鉄道に委託して軌道や電気設備などの工事が始まるという。来秋には高架線への切り替えを行い2012年度中の供用開始を予定している。

新規緊急総合治水対策に25億

投資的経費は3%減

静岡県の2011年度当初予算のうち、投資的経費は対前年度比で3%減の1656億7400万円となった。交通基盤部の予算額は1484億8800万円で、10年度を3.3%（部局ベース）下回った。09年度比で8%減だった10年度当初予算よりも減額幅は縮小しているものの、依然として緊縮型予算での編成となった。主要事業では、県立学校の耐震化に37億9700万円を投じ、82棟で補強・改修工事を進める。「災害に強い地域基盤」づくりに向け、河川事業に127億7400万円、海岸事業に20億8100万円、砂防・治山・農地防災事業に112億6600万円をそれぞれ盛り込んだ。新規では、緊急総合治水対策事業に25億円を充てる。

2011年度当初予算案

(単位：百万円)

	11年度当初	10年度当初	伸び率
一般会計	1,132,400	1,126,500	0.5%
投資的経費	165,674	170,812	-3.0%
公共・直轄	85,994	91,660	-6.2%
単独	74,687	74,616	0.1%
災害復旧費	9,000	8,670	3.8%
特別会計	370,101	409,379	-9.6%
企業会計	63,655	56,311	13.0%
計	1,566,156	1,592,190	-1.6%

静岡県・部局別の2011年度当初予算額

(単位：百万円)

区分	11年度当初	10年度当初	増減	伸び率
歳出規模	1,132,400	1,126,500	5,900	0.5%
経営管理部	317,938	320,165	-2,227	-0.7%
企画広報部	5,832	7,411	-1,579	-21.3%
くらし・環境部	8,647	7,988	659	8.2%
健康福祉部	201,987	185,063	16,924	9.1%
経済産業部	48,334	47,278	1,056	2.2%
交通基盤部	148,488	153,582	-5,094	-3.3%
危機管理部	4,417	4,590	-173	-3.8%
出納局	1,849	1,843	6	0.3%
教育委員会	274,468	275,262	-794	-0.3%
公安委員会	76,666	80,063	-3,397	-4.2%
各種委員会・議会	2,756	2,684	72	2.7%

当初予算案を読む

県では、11年度当初予算編成に当たって、健全財政の枠組み堅持を基本線に編成し、年間所要額を最適化させた。しかし、公共・直轄の投資的経費が6%減となるなど、公共投資に対する予算措置の重点化・集約化が色濃く編成となった。

主な土木関係事業では、補助・交付金・単独を合わせた道路整備に総計208億円、合併新法による合併市町を支援する新合併支援重点道路整備事業に12億円、JR沼津駅・富士宮駅の鉄道高架事業に11億4100万円、福田漁港のサンドバイパス事業に8億1400万円、静岡空港の駐機場・格納庫用地の整備に2億8000万円、JR沼津駅とJR富士宮駅の鉄道高架事業に11億0200万円などを計上した。

建築関連の主要事業では、草薙総合運動場硬式野球場の耐震化に36億2900万円、天竜地区新構想高校など県立学校等施設整備事業に27億9400万円、静岡赤十字病院など災害拠点6病院の耐震整備助成に10億6500万円、静岡高校など計82棟の地震対策緊急整備に37億9700万円、環境衛生科学研究所など県有施設の耐震化に3億5300万円などを盛り込んでいる。

投資的経費は一般会計の14.6%

11年度当初予算の一般会計総額は1兆1324億円で、10年度当初予算と比較して0.5%上回った。特別会計は3701億0100万円（対10年度比9.6%減）、企業会計は636億5500万円（同13%減）となった。

投資的経費は、1656億7400万円（対10年度比3%減）で、一般会計全体に対する構成比は14.6%を占めている。内訳として、県単独は0.1%増で10年度とほぼ横ばいだったが、公共・直轄が10年度当初比で6.2%減と落ち

込んだ。補助金など長期継続事業の見直しや事業の重点化・効率化など、徹底した「歳出のスリム化」が予算編成に反映された。

部局別の予算額は、交通基盤部が対10年度比3.3%減の約1484億円、営繕関係事業を所管する経営管理部が同0.7%減の約3179億円となった。この公共2部で予算全体に対する構成比は、予算全体の約41.2%（10年度は45%）を占める。

その他の公共関係部局では、くらし・環境部が対10年度比8.2%増の86億4700万円、経済産業部が同2.2%増の483億3400万円、教育委員会が同0.3%減の2744億6800万円、公安委員会が同4.2%減の766億6600万円となった。

建設関連の主な事業は次の通り

（単位＝万円）。

砂防、地すべり、対策などに112億

■「命」を守る危機管理

▷県有施設耐震化関連（環境衛生科学研究所ほか）－3億5350

▷地震対策緊急整備（静岡高校ほか工事82棟）－37億9700

▷警察庁舎耐震化（沼津合同庁舎）－6650

▷私立学校地震対策緊急整備助成（小中高校8校、幼稚園3園）－4億

▷医療施設耐震化臨時特例事業費助成（静岡赤十字病院ほか6病院）－10億6582

▷社会福祉施設等耐震化等事業費助成（耐震化7カ所、スプリンクラー整備12カ所）－22億8211

▷プロジェクト「TOUKAI-0」総合支援事業－8億3300

▷ふじのくに緊急リフォーム支援事業費助成－1億

特集 1

▷県有施設の法定点検事業（県有施設208棟、県営住宅66棟）－3億6207

▷グランシップ安全対策（発注方式検討、設計者選定ほか）－200

▷家畜保健衛生所施設整備（東部、西部家畜保健衛生所）－1億1800

▷防災行政無線デジタル化推進－4100

▷大規模地震対策等総合支援（公共施設等耐震化ほか）－16億

▷河川関係事業（河川改修、水門設置ほか）－127億7400

▷海岸等関係事業（高潮対策、海岸保全ほか）－20億8100

▷砂防・治山・農地防災等関係事業（砂防、地すべり、急傾斜地崩壊対策、治山、湛水防除）－112億6680

▷県営漁港整備（福田漁港港口部の埋没対策、浅羽海岸の浸食防止対策のためのサンドバイパス事業）－6億9000

▷災害復旧等事業（公共土木施設の復旧）－124億6100

▷「安全・安心の道」緊急対策（地域の孤立防止対策ほか）－25億

▷緊急総合治水対策－25億

3 地区新構想高校整備に27億余

■「有徳の人」づくり

▷県立学校整備（静岡地区新構想高校、天竜地区新構想高校、引佐地区新構想高校、沼駿地区特別支援学校分校、志榛地区特別支援学校分校ほか）－27億9400

■「憧れ」を呼ぶふじのくにづくり

▷富士山世界遺産センター検討（拠点施設の整備検討）－200

▷鉄道交通対策事業費助成（大井川鐵道ほか）－2億5600

▷光ファイバ網整備推進事業（伊豆の国市、

静岡県の予算推移(2000～2009年度)

年度	2000年度	2001年度	2002年度
一般会計（億円）	13,220	13,215	11,920
投資的経費（億円）	3,407	3,224	2,743
一般会計に占める投資的経費の占有率（%）	25.7	24.4	23.0

掛川市）－1億1530

▷観光施設整備事業（市町などへの観光施設整備への助成、県有観光施設の整備）－9億9500

▷空港ガーデンシティ構想推進事業（石雲院展望デッキなど整備）－2億2540

▷「ふじのくに」おもてなし道案内推進事業（4カ国語表記標識の整備）－5000

■一流の「ものづくり」と「ものづくり」の創造

▷新規産業立地事業費助成（工場などの新增設に要する経費）－19億

▷地域産業立地事業費助成（用地取得費の10分の2）－10億

▷耕作放棄地解消総合対策事業（解消目標面積580㌦）－5450

▷森林・林業再生推進事業（森林情報システムの整備）－4555

▷鳥獣被害防止総合対策事業費助成（鳥獣被害防止柵の設置など）－5456

▷漁港漁場整備事業（水産物供給システムの基盤構築）－20億2500

■「和」を尊重する暮らしの形成

▷家・庭一体の住まいづくり推進事業（アイデアコンペの実施、モデル住宅団地など）－1700

▷わかりやすい道案内推進事業（地域別公共サインに基づく標識の新設・更新）－1億

■「安心」の健康福祉の実現

▷中央児童相談所再配置事業（静岡市内から藤枝市内への移転改修のための設計）－3000

▷認定こども園等整備事業費助成（民間保

静岡県2011年度当初予算案を読む

2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
11,770	11,640	11,403	11,043	11,395	11,298	11,318	11,265	11,324
2,629	2,573	2,350	2,306	2,113	2,080	1,860	1,524	1,656
22.3	22.1	20.6	20.9	18.5	18.4	16.4	13.5	14.6

育所緊急整備13カ所、子育て支援拠点整備3カ所、放課後児童クラブ整備2カ所) - 9億9354

▷医療関係施設等整備事業費助成(18カ所) - 2億4024

▷地域中核病院施設整備事業費貸付金(聖隷浜松病院) - 1億8000

▷診療機能強化事業(県立静岡がんセンター) - 9億0300

▷障害者自立支援総合助成(グループホーム、ケアホーム、生活介護事業所、障害児通園施設) - 1億0576

▷介護保険関連施設整備事業費助成(特別養護老人ホーム19カ所、認知症高齢者グループホーム16カ所ほか) - 85億9087

草薙球場拡張、新体育館設計に36億

■ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり

▷農業農村整備関係事業(生産基盤の整備) - 73億6500

▷新東名を活用した農村活性化指針策定(新東名高速道路I C周辺の有効な土地利用の誘導) - 200

▷森林整備加速化. 林業再生事業(間伐、路網整備、木造公共施設整備ほか) - 4億9322

▷森の力再生事業(荒廃した森林の再生) - 9億7200

▷都市高速鉄道高架事業(J R沼津駅付近、J R富士宮駅付近) - 11億0280

▷東部地域都市拠点総合整備事業推進(事業予定者との設計協議、汚染土壌処理ほか)

- 4700

▷草薙総合運動場リニューアル事業(硬式野球場外野拡張、新体育館基本・実施設計ほか) - 36億2900

▷新合併支援重点道路整備事業(新市町基本計画に基づく道路整備) - 12億

▷高規格幹線関連道路整備事業(伊豆縦貫自動車道関連道路などの整備推進) - 4億1400

▽道路整備事業(補助、交付金、単独) - 208億3800

▷道路施設長寿命化緊急対策事業(橋梁、舗装、トンネル設備) - 21億

▷港湾整備事業(清水港、田子の浦港、御前崎港) - 70億7285

▷静岡空港ターミナル地区西側整備(駐機場、格納庫用地などの整備) - 2億8000

▷航空灯火電源高質化事業(航空灯火施設への無停電電源装置の整備) - 1億0700

▷富士山静岡空港利便性向上事業(旅客搭乗橋整備事業への助成) - 6922

▷空港周囲部環境保全対策(航空機騒音対策など) - 1億0260

▷空港周囲部緊急森林保全等事業(植樹地の下刈、葛の除去など) - 6280

■「安全」な生活と交通の確保

▷交通安全施設等整備事業(信号機、標識・標示、歩道ほか) - 50億9188

▷警察施設整備事業(仮称・裾野警察署、森分庁舎、浜松東警察署中田島町交番ほか) - 5億4331

県立高校

土
建

木
築

製
設

図
計

優秀作品

建通新聞社では、次代の建設業界を担う土木科・建築科に在籍する県内の高校生を対象に、技術や意欲を高めることを目的に、優秀な設計・製図作品を毎年表彰している。2010年度も、2月18日に静岡市駿河区池田のグランシップで「第9回静岡県立高校土木製図優秀作品」と「第39回静岡県立高校

特集2

卒業建築設計優秀作品」の表彰式を開いた。作品を手掛けた6校・28人の生徒には、建通新聞社の山地忠雄社長から表彰状や記念品が贈られた。荒削りながら若々しい作品がそろい、多くの来賓が高く評価。生徒たちは緊張した表情の中でも、表現力など自分たちの新たな課題も発見した様子だった。

28人に栄誉

今回で9回目を迎える土木製図表彰では、土木製図優秀作品表彰では、沼津工業高校、科学技術高校、島田工業高校、浜松工業高校の4校から、12人の生徒を表彰。

一方、1972年（昭和47年）から、建通新聞社が主催している第39回卒業建築設計では、伊豆総合高校、沼津工業高校、科学技術高校、島田工業高校、天竜林業高校、浜松工業高校の6校から、16人の生徒を表彰した。

式では、主催者を代表して、建通新聞社の山地社長が「ここ数年、建設産業界を取り巻く状況は大変厳しいが、夢と希望を捨てず、今後も自ら信じた道を進んでほしい」とあいさつした。

来賓の静岡県教育委員会学校教育課の中澤哲也課長が受賞者を前に「精度が高く緻密（ちみつ）に仕上げた作品が多かった。次の進路でも、より一層技術を磨いて、将来は本

県を背負って立つ土木・建築技術者として活躍してほしい」と激励した。

静岡県交通基盤部の内田賢技術管理課長は「土木は身近な生活を支える重要な構造物。ぜひ、技術者として多くの人々に喜びを与えてほしい」と祝辞を述べた。

静岡県経営管理部の酒井章次理事は「社会に出たら学校で学んだ知識に加えて、現場や状況によって応用力が問われる場面がある。先輩から『技術を盗む』ようなしっかりした気持ちで、業務に取り組んでほしい」と呼び掛けた。

一方、土木業界を代表してあいさつした静岡県建設業協会の山田壽久理事は、作品を見た感想として「土木・建築業界問わず、厳しい状況を迎えている。このような時こそ、若手技術者の力が必要となる。ぜひ、卒業後は建設業界に飛び込んでいただくことを期待する」とあいさつ。

静岡県建築士事務所協会の立道幸男会長は「実際の現場では図面は見るのではなくて『読む』もの。ぜひ相手に設計の意図が十分

に伝わるような設計・製図を心掛けてほしい」とアドバイスした。

受賞者謝辞では、沼津工業高校の横山純樹さんが「卒業建築設計に込めた情熱を忘れず、今回の表彰を糧に、これからも努力していきたい」と意気込みを述べた。

受賞作品は今後、「住まい博 住宅展」などのイベントで展示される予定。

受賞者は次の通り（敬称略）。

【土木】

- ▷沼津工業学校－大矢慎吾、佐野清輝、伊奈劉斗
- ▷科学技術学校－片井康平、黒柳健太、池田眞士
- ▷島田工業学校－加藤右京、下村昌矢、山崎建佑
- ▷浜松工業学校－藤田直也、鈴木七海、柴田剛

【建築】

- ▷伊豆総合高校－伊藤安可根、海老名剛東、長尾将孝
- ▷沼津工業高校－横山純樹、高島涼、芹澤望
- ▷科学技術高校－松岡弘樹、海野洸哉、福嶋良太

▷島田工業高校－八木健太朗、栗田鉄也、中村岳立

▷天竜林業高校－渡邊龍星

▷浜松工業高校－石井克弥、大村匠悟、西村仁志

若々しい作品 そろい高評価



ものづくり工房をもつ研修施設
科学技術高校 松岡 弘樹さん

特集2 県立高校 土木製図・建築設計 優秀作品



でこぼこコミュニケーション
沼津工業高校 芹澤 望さん



二俣小学校再生計画
天竜林業高校 渡邊 龍星さん

富士山にかかわる自然・景観・歴史・文化のどれ一つをとっても、人間社会を映し出す鏡である。富士山と人との共生は、最も重要な課題であり、まちづくりにどう生かすかが重要となる。今を生きる人々だけでなく、次世代の子供たちのために。昨年からスタートした2月23日の富士山の日。ことしは、この日に合わせて、富士山と海に調和した美しいみなとまちを目指す「清水港・みなと色彩計画推進協議会」計画の策定、運営にかかわる東海大学開発工学部の東恵子教授に、富士山の景観を生かしたまちづくりの方策などについて聞いた。（聞き手は静岡支社報道部＝上田浩史）



【プロフィール】東 恵子氏（ひがし けいこ）。東海大学開発工学部感性デザイン学科専任教授。専門は環境デザインほか。日本デザイン学会、土木学会、日本都市計画学会、日本沿岸域学会などに所属。4月から同大学の海洋学部環境社会学科（新設学科）の教授に就任する。東京都出身。

東海大学開発工学部

東 恵子 教授

後世に 引き継ぐ 取り組みを

■富士山周辺地域における「魅力ある観光地づくり」への推進に向けた事業の在り方をお聞かせください。

富士宮市や御殿場市、富士市など富士山の周辺自治体のほか、静岡市や沼津市などでは、晴天時には鮮やかな姿を見ることができます。少し離れた伊豆地域でも、海越しに富士山を望むことができます。

しかし、高度成長期に富士山麓地域に重化学工業地帯が形成されことで、産業の象徴としての煙突が目立つようになり富士山の美しい景観を台無しにしてきたことは否めません。

このことを省みて2002年から地球温暖化対策の普及促進や地震災害の予防および日本を代表する富士山の景観向上を目的に富士市煙突撤去モデル事業、富士地域煙突ゼロ作戦を



(写真提供／静岡県観光協会)

行ってその成果をあげています。

これからは、あらためて富士山の素晴らしさを見直し、地域とともに生きるシンボルとして、まちづくりを進めることが必要です。

県外の遠方から訪れる方々にとって、毎日、富士山を眺めながら日々を送ることは、静岡県で生活している人の想像以上に幸せを感じるべき特色なのです。県民にとって、富士山は空気のような存在ですが、「一度は秀麗な富士山を近くで眺めたい」と思っている人は国内外含めて大変多いのです。

これまで、日本における観光の主流は、その土地の名物を飲食したり、娯楽を楽しんだり、スポーツを観戦したりする周遊型が中心でした。しかし近年、観光の在り方は少しずつ変化しており、滞在型の観光者が増えているように、美しい風景の価値が見直されています。

ヨーロッパと比べて、日本では「美しい風景が心豊かにするものだ」という認識がすべての人に浸透していない面があります。外国からの観光客は日本の象徴としての富士山を

眺めることが人気ルートとなっています。やはり、世界中探しても、富士山ほど美しい山はないとわたし自身は感じています。

本県の観光政策の基盤を考えた場合、美しい富士山の風景を生かすべきではないでしょうか。本県の特徴を全国に、更に海外に発信する意味でも、富士山を中心とした都市づくり・まちづくりに取り組むべきだと思います。

■富士山の景観を生かしたまちづくりを進める場合、特に富士山周辺自治体の取り組みが鍵を握ると思いますが。

現在、富士山世界文化遺産の静岡県の学術委員を務めています。当初、登録に向けて動き出した段階では、景観に対する意識はどちらかというと薄かったことは否めません。

2004年（平成16年）に景観法が制定されて以後も開発行為に規制がかかるのではないかと懸念があったようにも思います。しかし、富士山はそれ自体が「文化財保護法」に基づいた「特別名勝」に指定されている文化財で、風景の国宝といえます。周辺の市は景観行政団体に指定され、景観計画を策定することにより、地域の景観形成に対して非常に積極的な取り組みを始めています。

世界文化遺産の認定登録を契機に、行政だけでなく県民の間にも、富士山の文化的価値を見直す気運が高まってきています。

■教授という立場から、学生に対して教鞭（べん）を振るわれている中で、若者に対して富士山の素晴らしさをどのように伝えたいですか。

今、多くの若者が富士山に登っています。